

香港と日本 — I&T コラボレーションの豊富な機会

日本はイノベーションおよびテクノロジー（I&T）分野の最先端技術で、長く名を馳せてきました。香港は引き続き自らの科学技術イノベーション能力の向上を図る中、この重要な分野で日本との連携を強化していきたいと望んでいます。

香港のI&T推進は、医療、人工知能（AI）、スマートシティ、フィンテックの4つの開発分野に重点を置いています。ハードとソフトの両面で香港のI&T能力を上げるための実際的な施策としては、研究開発のリソース強化、研究開発に関する税の軽減、現地人材の育成および海外人材の誘致、技術スタートアップへの支援、技術研究インフラの整備などがあります。

香港にあるハイテク拠点

香港の大学は、バイオテクノロジーからロボット工学まで幅広い分野でその多大な貢献を評価されています。また香港には、科学技術革新を支援するためのセンターが複数あります。

サイバーポートやサイエンスパークといった機関は、インキュベーションプログラムの形で支援を提供しており、その内容には、オフィスをはじめ、マーケティングやメディア露出、技術支援施設などが含まれます。現在、サイバーポートとサイエンスパークには日本企業が数多く入居しています。



サイバーポートには900社のデジタルテクノロジー企業が集まり、クリエイティブなデジタルコミュニティを形成。

中でも最大のI&Tプラットフォームとなる、香港と深圳の境界に建設中の香港・深圳イノベーション科学技術パークは、世界中からトップ企業、研究開発機関や高等教育機関を誘致することを目指すものです。

他にも香港では、医療技術、またAIとロボット工学に関する2つの研究集積地を整備しているところです。

保健・医療分野において、日本と香港は高齢化という課題を共有しています。そのため、ジェロンテクノロジーは、高齢者の生活の質を高める方法を共同で探求できる領域です。

また、世界の一流研究開発機関が海外拠点を設置する場所として、香港を選んでいきます。その中には、香港に海外初の研究施設を開設した世界屈指の医科大学であるスウェーデンのカロリンスカ研究所や、香港にイノベーションノードを設立したマサチューセッツ工科大学（MIT）などがあります。こうした動きは、イノベーションハブとして香港の地位が高まっていることを裏付けるものです。

一方、急速に発展している広東・香港・マカオ大湾区は、中国の国際的なイノベーションと技術のハブとなる準備を進めています。大湾区は、テクノロジー企業にとっての巨大な市場であるだけでなく、研究成果を試作品や製品へと具現化するための高効率な製造拠点でもあります。高度なインフラと強力な研究能力を備えた香港は、大湾区に国際I&Tハブを構築する上で重要な役割を果たしていきます。香港は日本の企業、大学、研究開発機関に、こうした利点とチャンスすべてを活用するよう呼びかけています。



香港をアジアのI&Tハブとすることを目指す香港サイエンスパーク。

テクノロジー企業の資金調達が容易に

香港証券取引所は、収益を上げる前のバイオテクノロジー企業と加重投票権構造を持つ企業のメインボード上場を認める新たな上場制度を導入しました。この新しい上場制度は、香港での二次上場を検討する株式発行者に道を開くものでもあります。

香港は技術人材を歓迎

香港は「技術人材入境計画」を試験的に導入し、バイオテクノロジー、AI、サイバーセキュリティ、ロボット工学、データ解析、金融技術、材料科学の各分野に従事する専門人材に、通常よりも迅速な入境許可を与える仕組みを開始しました。これにより、テクノロジー企業や機関は海外の技術人材を誘致できるようになりました。

一方、8月に開始された「技術人材育成計画」には、企業が科学研究と製品開発のために博士課程修了人材を採用するのを支援する、博士課程修了者ハブプログラムが盛り込まれています。

日本と香港はI&Tに重きを置くことで、双方の経済にとって多くの新たなチャンスを開いているのです。



香港サイエンスパークで開催されたSónar Hong Kong 2018は、音楽とクリエイティブテクノロジーの刺激的なラインナップでファンを魅了。